

阿古谷みらい協議会は、猪名川町阿古谷地域で「農産品を活用した商品開発」として地域で採れた野菜を使ったお弁当、スイーツやピザづくりを行っています。

収穫時期や量について農家の方に話を聴くところからスタートし、シエフや栄養士、地域の方々や商品づくりにチャレンジ。小学校廃校後に開校した高等専修学校の皆さんにもアイデア面でご協力をいただき、試食・改良を重ねた自慢の品は「グリーンツッパリスム」で当地にお越しになった観光客の方々にも大好評です。

緑の山々に囲まれたふるさと阿古谷の旬の野菜は、大きな魅力。初夏には

北播磨

北播磨の日本酒プロジェクト

まちとひとの編集所

代表 立花 莉絵子（加西市）

北播磨は、酒米山田錦の一大産地として全国から高く評価されていますが、北播磨在住でもその事実を知らない若者や、山田錦で作った日本酒を飲んだことがない人が多くいます。

そこで、地域の若者に山田錦で作った日本酒の魅力を伝える活動に取り組みました。例えば、北播磨の酒蔵などを紹介した「北はりまの日本酒と暮らし」冊子の発行。北条鉄道を貸し切り、日本酒の試飲・北播磨産の農産物で作った酒の肴の試食会「ほろよい列車」の開催などです。

蛸が舞う美しい水や豊かな土、温かい農家の人たちに育てられた野菜を活かし、商品を通じて多くの人に地域の魅力を知っていただき、訪れていただきたいと考えています。



高校生が作る採れたて地元野菜の窯焼きピザ

〇問い合わせ先 阿古谷みらい協議会 猪名川甲英高等学院内 電話 072-767-2266



「ほろよい列車」で日本酒を楽しみました！

〇問い合わせ先 まちとひとの編集所 立花 電話 090-6372-0803

西播磨

上高モロたまプリンで活性化

上高地域活性化プロジェクトチーム

校長 西坂 美樹（上郡町）

上郡高校では、数年前から、授業「社会人基礎」の中で地域活性化に取り組みんでいます。

本校が位置する上郡町では、従来から高い栄養素をもち、「王様の野菜」といわれるモロヘイヤを町の特産品としてPRするなど、様々な取り組みがなされています。そこで、本校農業科ではモロヘイヤを飼料に混ぜ鶏に与えることで、栄養価（βカロチン）の高い鶏卵の生産に成功しました。

そして、普通科の生徒で組織する地域活性化プロジェクトチームがその鶏卵を使ってプリン「プリン・ドゥ・クレオパトラ」を開発し、地元カフェ（陶酔房さん）の協力も得ながらその販売



開発している「モロたまプリン」

〇問い合わせ先 上郡高校特色教育推進部 松崎 電話 0791-52-0069

丹波

高校・大学・地域でカフェメニュー開発！

アグリステーション丹波ささやま

代表 小林 泰雄（篠山市）

篠山市城南地区の農産物加工・販売拠点「アグリステーション丹波ささやま」と篠山産業高校、神戸大学篠山フイルドステーションが連携して、アグリステーション内のカフェで提供するメニューの開発、販売を行うプロジェクトに取り組んでいます。

地元農家や行政職員を招き、地域や農業の現状について学習した後、九月二十七日に高校生が自分たちで考えた地元特産品（黒大豆や栗、山の芋など）を使ったメニューをプレゼンテーションしました。

十月頃から各イベントで試験販売、その後も大学や地域の方などからの



篠山産業高校でのプレゼンテーション

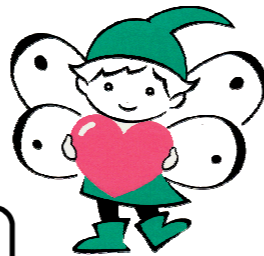
〇問い合わせ先 小林 泰雄 電話 090-7221-1970

県民運動情報「ネットワーク」

“こころ豊かな美しい兵庫”をめざして

特集

「グルメ・特産品を活かしてふるさとを元気に！」



愛称：ココロン

編集発行 こころ豊かな美しい兵庫推進会議（兵庫県企画県民部県民生活課内） 〒650-8567 神戸市中央区下山手通5-10-1 Tel 078-362-3136

今回は、グルメや特産品を活かしたふるさとを元気にする活動について、知事と語り合っていました。（平成二十九年一〇月一二日対談）

- 【出演者】 道の駅 但馬のまほろば 支配人兼 伊丹都市開発株式会社（伊丹のまちづくり会社） 井戸 敏三 福丸 泰正（朝来市） 村上 有紀子（伊丹市）

自己紹介・地域の特産品

福丸 東京都出身で、大学卒業後は本鳥居で有名な京都の伏見稲荷大社で十年間神職に就き、その後は京都の「下鴨茶寮」で食材を勉強し、九年前に道の駅「但馬のまほろば」に転職しました。三年前からは駅長を務めています。知事 神主さんから駅長さんに転職とは、珍しいご経歴ですね。駅長さんが自ら神主をするわけですね。

村上 私 は京都市伏見区の出身で、二六年前に結婚して、酒どころから清酒発祥の地に嫁にきました。九年前に街のイベントに参加したのをきっかけに街のお手伝いを始め、NPO法人「たみタウンセンター」の理事長を経て、今は、まちづくり会社「伊丹都市開発株式会社」の参与としてイベントのお手伝いをしています。我が社は、伊丹市中心市街地活性化協議会の事務局として、「伊丹まちなかバル」、「イタミ朝マルシェ」、「いたみわっしょい」、「伊丹クリスマスマーケット」、各種講座やまちあるきなどの様々なイベントを行っています。

知事 伊丹といえばお酒だけではなく、江戸時代から文化の街です。文化面にもタッチされているんですね。

村上 一番最初に関わったのは「鳴く虫と郷町」という、虫の声を聞きながら様々なことをするイベントでした。伊丹には小西酒造さんが作られた「修武館」という日本三大私設道場があり、「そこで何かイベントをしませんか」と言われて、初めてイベントをしました。クラシック、ジャズ、狂言、能などを、今年九月にはフラメンココンサート。イベントに関わったことがきっかけで音大に通い、次は勉強をしようと思いい、今年の三月にまちづくりの大学院にも行きました。

知事 福丸さんは神職、食材を仕入れるお仕事、道の駅の駅長と、なぜそのような選択をされたのですか。福丸 稲荷大神様は農耕・稲・お米の神様、下鴨茶寮は食を提供するお店です。道の駅は農産物を中心とした食材をPRするところで、全て「食」がテーマなんです。但馬に来て「食材の宝庫だな」と驚き、私の天職だと思いい、但馬の食材を本気でPRして地域活性化・経済効果に繋げたいと思いい、始め

村上 ラー油、スープ、ドレッシング、ウインナー、ソーセージなどがありま集客イベントを定期的に行っています。今回八回目となる「ロードサイドステーションフェスタ」がまほろば最大の地域活性化イベントです。元々、但馬のお宝のPRを目的に始まり、今では秋の恒例イベントになりました。今年も九月二十四日に開催し、但馬三市二町をはじめ兵庫・大阪からグルメが四六店舗、はばタンをはじめ兵庫県内のゆるキャラが一六キャラクター集合し、

村上 有紀子さん 知事 どんな加工品を作っているんですか。福丸

来場者数は一日で約二万人でした。
知事 レストランのバイキングにも特色があるんですよね。

福丸 毎週水曜日・木曜日に、まほろばにある野菜・果物、但馬牛、豚、鶏を使って、おばんざいバイキングをしています。おばんざいは京都の家庭料理という言葉で、「地元のお客様が生まれ育っているところは、美味しい食材がたくさんあるよ」という意味を込めて始めました。

知事 売り上げはどのくらいですか。
福丸 年間約九億二五〇〇万です。
知事 道の駅で一〇億近い売り上げがあるのは、聞きませんよね。

福丸 全国でも、兵庫県の中でも、あまりないと思います。



福丸 泰正さん

常にチャレンジするまほろば

知事 「但馬のまほろば」は、どうして皆さまに来ていただけるようになったのでしょうか。

福丸 まほろばの前には北近畿豊岡自動車道があり、高速を出ずに来ていただけるので、立地条件に恵まれています。常に新しいことにもチャレンジしていて、例えば全国の道の駅で一番最初に「Pepper」を導入しました。朝来市の多次市長にお願いして、朝来市の非常勤職員として辞令をいただき、但馬朝来の観光PRもしています。
知事 観光大使でもあるんですね。
福丸 英語・中国語・韓国語・フランス語にも対応しています。さらに国内

知事 それぞれ特色のある人がいるんですね。じゃあ藤原市長はコンダクター（指揮者）ですか。

村上 藤原市長は市民力を大事にされるので、応援して下さっていて、一回目を迎える修武館のコンサートも第一回目から来ていただいています。「鳴く虫と郷町」では六〇のイベントが各地で行われていて、演劇やコンサートなどを昆虫館の人と文化財団の人が立ち上げられました。

知事 次に計画されているものはありますか。
村上 「イマチワークス」が面白いなと思っていて、兵庫県の補助もいただいています。名前は若い人たちが考えてくれて、イマチ（IMAT）は反対から見ると伊丹（ITAM）になります。DIY、好きを仕事にする方法、農業、ローカルなどをテーマに実施してきました。今までのまちづくり関係ではないテーマに絞って、様々な講師の方を呼んでいます。今までの「まちづくり」という形では参加されなかった若い人たちが、これには来てくださっていて、またここから広がったら良いなと思っています。

知事 まほろばは三田に進出していただきますよ、よろしくお願いします。
福丸 三田市のカルチャータウン内に、兵庫県の食のアンテナショップが二〇一八年の春頃にオープン予定です。三田に新しい風を吹かそうという意味を込め、「三田まほろばプレッシア」と名付けました。



(プレッシア:イタリア語で「そよ風」)

では珍しい、免税店になっています。
知事 インバウンド対策も、随分と力を入れていらっしゃるんですね。

福丸 対象が限られています。外国人旅行者の方々がまほろばで野菜果物を買えば、手土産として持って帰ることが出来ます。(農水省「おみやげ農畜産物検査受検円滑化支援事業」)海外の方は数週間滞在されるので、まほろばで買ったものを関空に送ってあげるんです。国によって、検疫しなくてよいもの、ダメなものが決まっていますので、ダメな物は早めに送ってあげたり、検疫の代行をしてあげます。他にも、シンガポールの方だけですが、但馬牛を持って帰ることが出来ます。

知事 面白いですね、コロナプスの卵になるかもしれません。普通、検疫が大変だから持って帰れないと思ひ込みますよね。いかに福丸さんが創意工夫を次々重ねているか、実態をお伺いすることができて、大変嬉しいですね。

バルを巡ってまち歩き

知事 町歩きイベントのどこに惹かれたのでしょうか。

村上 今まで会ったことがない人たちと会えるところです。自分が面白いと思ったことが次に繋がったり、達成感を感じたり、普段は得られない体験をしました。

知事 伊丹のバルは何年目ですか。
村上 今年で八年半、今年が一七回目です。

知事 バルを始めるにあたり、苦心された点がありましたか。
村上 第一回は、兵庫県の震災復興の補助金をいただき、先に二〇〇四年に

コンセプトは「レストランで食べてもらって、気に入った食材・調味料があれば隣の売り場で買って帰って家でも楽しんでね」という今後の主流スタイルです。プレッシアはKiss・S・FM KOBЕと連携し、サテライトスタジオとしても活用します。道の駅でもない、スーパーでもない、レストランでもない、という新しい店舗展開を進めて、三田を中心に地域活性化・経済効果に繋げたいです。

知事 かなり三田にマッチしたコンセプトですね。まほろばさんが進出するので、苦戦していたカルチャータウンの分譲が少しずつ動き始めました。

今後の抱負

村上 人生は一回きりなので、これからも興味の赴くまま、楽しいと思うことを無理なくやっていきたいです。それが結果的に、街の賑わいに繋がって、手助けをできれば嬉しいですね。

知事 大学院で学ばれた知識を实地に活かしていただければと思います。どういうまちづくりを学ばれたんですか。
村上 「ソフトを通じてつながりが出来ていくか」ということで、伊丹での九年間について、賑わいには「場」と「人」と「イベント」が要るよねということを論文に書きました。その「人」も、決められたコミュニティではなく、アシエーション(自分から見つけていく縁)が作用するのではないかと。

知事 「自分で選択をしてその一因になっていく」というプロセスが必要なんですね。
福丸 道の駅「但馬のまほろば」は、顧客満足度日本一の道の駅を目指します。また、全国道の駅初のミニユン

バルを開催した函館さんに全部ノウハウを教えてもらい始めました。私は初めてのコンサートを終えて「達成感はあるけど寂しいな」と思っていたときに、知り合いの方に



「手伝って」と言われ、セールズ経験もないけどお店に行って「無料で、普段の営業時間、写真、地図も載るし、当日にバルのメニューを出すだけでこんなに参加できます」と口説いて回るのがすごく楽しくて、一週間で七〇件くらい回りました。「せつかく口説いたなら実行委員会に入ったら」と言われて、市民で一人だけ実行委員になりました。最初は五四店舗でしたが、今は一〇〇店舗前後の規模です。

知事 お客さんに、複数のお店を回っていただくわけですね。
村上 七〇〇円五枚綴りのチケットを持って、一〇〇店舗のお店から選びます。初めてのお店に入るのなかなか勇気が要りますが、気になっていたら、高級なお店や、オヤジさんが居るような立ち飲み屋さんでも、チケット一枚で入れます。

知事 異次元体験ができるんですね。
村上 回っているうちに、知らない間にまち歩きが出来ます。
知事 お店の店主は、「これがうちの自慢だ」と口上は立てるんですか。
村上 バルマップにはお店からのメッセージを載せています。

知事 入るお店を決めておかないと、獲得を目指します。今はレストランや観光地に特化していますが、元々ミニユンは車で行く価値のあるところに対して星がつくものなので、車で行く「道の駅」として頑張ります。「まほろばプレッシア」では、三田でまほろばの新しい風を吹かせて、兵庫県を盛り上げていきたいです。

知事 三田は急成長しましたが、成熟化して、住人は高齢者と若い方々に両極化しています。なので新興都市の顔と成熟した都市の顔の、両方に対応できるような新しい風を是非吹かせていただくとありがたいです。伊丹では、空港まで阪急が乗り入れるプランが発

とても全部は食べられないでしょうね。
村上 そうやってうろろろ回るのも楽しいですよ。オトラクな一日というイベントも同日開催されていて、三八組のミュージシャンがいろんなお店や舞台で演奏してくれます。

まちづくりの影響

知事 バルは、伊丹のまち自身にどんな影響があるのでしょうか。
村上 九年前には少なかったですが、現在では毎週イベントがある街になりました。初めは「まちなかバル」があったって、実行委員会が会議を重ねるうちに飲食店の人が自分たちもイベントをしようとなり、「屋台村」というイベントを三軒寺前広場で実施しました。それを支える市民サポーターの人が新しくイベントを始めたり、屋台村では昭和五十七年生まれの人たち(五七会)がイベントをして、その下の世代の方たちが中心市街地外も盛り上げるロックフェス「ITAM GREEN JAM」を始めたら、五七会の人たちが飲食ブースを出して応援して…。

知事 まちなかバルが伊丹のまちづくりの中核になっている。他の地域だとお年寄りが元気でですよ。
村上 若い人たちが「何かやろう」という時に「失敗してもいいからやってみよう」と背中を押してくれているところが、すごく良いと思います。

知事 バルはそういう広がりがあるから、参加しやすくなっているんですね。
村上 しんどいお店は年に一回の参加でも良いです。誰か一人ではなく、一番バッターから九番バッターまでみんな居るような感じですよ。



表されましたね。関空、伊丹、神戸空港が同じ会社で運営されるので、伊丹空港をどう活用するか大きな課題になります。地元として、どう使つかを考えていただきたいと思っています。
知事 今日はお二人とも、お忙しい中お出でいただいて、大変ユニークな活動をお聞かせいただきまして、ありがとうございます。これからも益々の活躍をお祈りしております。

地域団体の紹介

神戸

「KOBEMINAとマルシェ」の開催

NPO法人 KOBEMINAとマルシェ
理事長 多田 眞智子 (中央区)

「KOBEMINAとマルシェ」は、平成二十一年春に日本全国をおそった新型インフルエンザ騒動で元気をなくした神戸に、明るい笑顔で神戸を発信しようとして、その年の七月に神戸のシンボルである神戸港中突堤で開催したのが始まりです。以後、毎年開催し、毎回三万人以上の方々にご来場いただいています。

の提供などに取り組んでいます。今年には神戸開港一五〇年を記念しての開催となり、大いに盛り上がりました。今後も魅力ある神戸港の賑わいの創出に努めていきます。



多様な交流
「KOBEMINAとマルシェ」
お問い合わせ先
NPO法人 KOBEMINAとマルシェ
電話078-200-5510